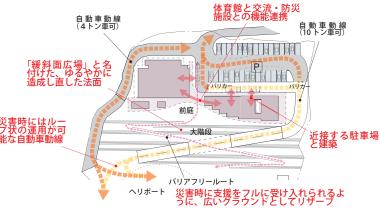
全体コンセプト

- 既存の法面をゆるやかにならし(=均し、馴らし、慣らし)て、人々が集まり楽しむ多 様な居場所と、3.7mの段差を優しくつなぐ安全な動線をつくります。
- 造成し直した新しい敷地全体を有効に活用して、災害時に「受援力」の高い避難所とな るように計画します。既存体育館のポテンシャルも最大限に引き出します。
- フェーズフリーの施設として、「まちの部活動」を通じて平常時から施設に慣れ親しむこ とにより、災害時の「自援力」を高め、避難所の自主運営が可能になるように計画します。
- ランドスケープと建築が持つデザイン自体の力によって見学者等の関係人口を増やし、 地域内外に開かれた交流が生まれる施設となることを目指します。

→ ① 交流・防災施設の平時と有事の機能を考慮した平面計画 ②既存施設(体育館やグラウンド)との総合的なつながりを考慮した外構配置計画

機能を最優先した合理的な配置計画

- ・建築と駐車場はアプローチしやすい上段に配置し、下段は災害時のため のリザーブ用地として確保します。
- ・交流・防災施設を体育館に隣接して配置し、円滑な機能連携を図ります。
- ・建築と駐車場を隣接して配置することにより、平常時、災害時共に車が 寄りつきやすい計画とします。
- ・上段からアプローチすると、建築は法面と下段へのゲートハウスのよう
- ・下段から法面を見上げると、上段の肩に建つ建築が効果的なアイストッ プとなります。



<配置イメージ s=1/1800> 土木と建築のマリアージュ

- → ① 交流・防災施設の平時と有事の機能を考慮した平面計画
- → ② 既存施設(体育館やグラウンド)との総合的なつながりを
- 考慮した外構配置計画 ユニバーサルデザインに配慮した計画

─ 7月──8月 ──9月

<7~9月の風配図>

水やりを必要としない粗 放的管理の「茅場」(チガヤ、ススキ、スケ等)

豊かな半屋外空間を持つ交流・防災施設の建築計画

物資の搬出入のために非耐

力壁に設けた新しい開口部

シャワー

スローブ (幻能 1/20) (幻能 1/20) (GL+3600)

体育館へのバリ (避難所としての 収容人数 120名)

7,280 4,095 3,640

GL+1800

建築にどっての大きな縁側(エ

プロン)のような「緩斜面広場」

藤棚

GL+800

「緩斜面広場」と名付けた、ゆるやかに造成し直した法面。大階段、バリアフリールート、車路等で構成されます。 法面上には東屋テラスや藤棚などの多様な居場所が設けられ、イベント時には観客席やステージとなります。

Taming the gap ~ 楽しくて、優しい、法面のならし方

- ・新しい地形とランドスケープの中に置かれた「大きな東 屋」をイメージして、開放的なデザインの建築とします。
- ・外周には、平常時にも災害時にも役立つ広い軒下空間を 設けます。
- ・特に多目的スペースは周囲3方向に軒下空間を持ち、屋 根付きの「アリーナ広場」へと連続して行きます。

10 トン車の通行時に

に基づいて危険と判断

される路肩

45°の輪荷重影響線

・交流・防災施設、体育館の両方へのアプローチとなる屋 根付き渡り廊下が、エントランスポーチをつくります。

屋根付き渡り廊下に迎えられるアプローチ空間。ゲート状のエントランスポーチの奥には下段敷地。 夏季には東西方向の卓越風が吹き抜ける、心地よい日陰のスペースとなります。 点対称の建築配置に導かれ

多目的ホール%-体利用が可

れる路肩はない

平常時には、車

路部分までア

体利用が可能

内外どちらからでも

利用可能な土間状の

調理室(炊出室)

<平面イメ+ジ s=1/600>

能な屋根付きのアリーナ広場

建築の周囲をぐるり

と巡る広い軒下空間

中庭・多目的

東屋

飛端時にも災害時候5 ±、役立つ、広い間口

会議

も役立つ、広い間にを持つ縁側状の廊下

交流、防災施設と体育館 を繋ぐゲート状のエント

ランスポーチ

眺めのよい前庭

GL+1800

大階段

「_{ステージ} 東屋テラ

下段への視線の抜け

大階段

(GL±0)

スローブ スロー (勾配 1/20) (勾配 1,

③ 県産木材の活用に配慮した計画 ⑤ 環境負荷・省エネ・コストを考慮した計画

シンプルで美しい構造計画

・県産の小径木を用い、在来の木造技術で建設可能なシンプルな架構を採用す ることにより、短い工期に無理なく対応すると共に、コストを抑制します。

and the place of

・天井のインテリアデザインとして、屋根架構の一部を露わしとします。

緩勾配に対応可能な 粘接着工法金属屋根 (ex. 商品名パーフェ 東立て クトルーフ葺) 千鳥張り 東立てによって 所定の屋根面形 トラス梁 小径木で 構成した 状をつくる トラス梁 10 トン車の通行時に、 中庭 多目的スペース アリーナ広場 45°の輪荷重影響線に 基づいて危険と判断さ 1.820 1.820 8.190

<大スパン部の軸組イメージ>

既存体育館の ポテンシャルを 引き出す改修計画

② 既存施設(体育館やグラウンド)との総合 的なつながりを考慮した外構配置計画

⑤ 環境負荷・省エネ・コストを考慮した計画

④ ユニバーサルデザインに配慮した計画

- ・東側と南側には下屋状の屋根付き 渡り廊下を回して、内外のバッ ファーとして機能させると共に、 立面を整えます。
- ・渡り廊下は、体育館への自然なバ リアフリールートとなります。
- 東側妻面の非耐力壁に、物資搬出 入のための新たな開口部を設けま す。
- 屋根南面に設置した 150 ㎡のソー ラーパネルと、蓄電池の併用によ り、停電時の全電力を賄うことが 可能になります。
- 避難所としての利用を想定して、 床置き汎用空調機による、居住域 に絞った置換空調を行います。



ます。木質を基調としたインテリアの天井は、「天蓋」と呼ぶ 、ラス梁の下弦材露わしのデザインとします。 調理室では、「パンじぃ」や「コーヒーじぃ」、「カレーじぃ」 等の高齢者チームが活動中。

裳階のように取り付く渡り廊下の屋根 山の稜線のように上下 が、体育館の立面を引き締める。 する棟のシルエット

<木造軸組ダイアグラム>

<南立面イメージ>

← ② 既存施設(体育館やグラウンド)との

総合的なつながりを考慮した外構配置計画

「普段使い」のきっかけをつくる

→ ① 交流・防災施設の平時と有事の機能を考慮した平面計画 → ② 既存施設(体育館やグラウンド)との総合的なつながりを考慮した外構配置計画

「まちの部活動」と防災教育プログラム

- 義務感や責任感に基づく自治会といった枠組みではなく、個人の興味関心により参加する「まちの部活動」を育成し、コミュニティの再生に繋げます。
- ・施設内のあちらこちらに様々なまちの部活動が同居している状態を目指します。

蓄電池と組み合わせて停電時の

電源となるソーラーパネル

スロープを利用した「高速

- ・まちの部活動が中心となって、災害時をシミュレーションした防災キャンプを定期的に開催することにより、楽しみながら防災について学ぶこと が可能になります。
- ・まちの部活動や防災キャンプを通じて施設に慣れ親しみ、また避難経路について熟知することにより、災害時に円滑な避難が行えるようになります。
- ・さらには、まちの部活動や NPO 法人等を主体とする指定管理によって施設を一般キャンプ場として運営することにより、「普段使い」のフェーズ フリー防災拠点として、災害時により円滑に避難所に移行することが可能になると考えられます。



防災キャンプのお昼ご飯。スロープを利用した「高速流しそうめん」大会。



避難所宿泊体験





ひとり佇む人

によって補強され

10 トン車の転回 可能なスペース

臨時P

197

自援力を高める

になります。

「受援力」を高める外構計画

|災害時の「自援力」を高める「まちの部活動」と

・様々な部活動がそれぞれの特技を生かすことで、自主的な避難所運営が可能になります。

自動車動線

・自動車動線と駐車場を建築に隣接して配置することにより、物資等の搬出入がしやすい計画とします。 ・10 トン車が下段まで無理なく通行できる車路(幅員 6m) を新設します。 ・既存車路(4トン車対応)と合わせてループ状の自動車動線を形成することにより、円滑な災害支援活動が可能



体育館へのサービス

駐車場から交流・防災施設へボランティアや防災部による物資の搬入

円滑な物資等の搬出入

施設周りに残した余地を利用した、

車中泊避難者にも

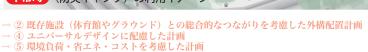
サービスしやす

い、施設に隣接し

DIY 部がユンオ

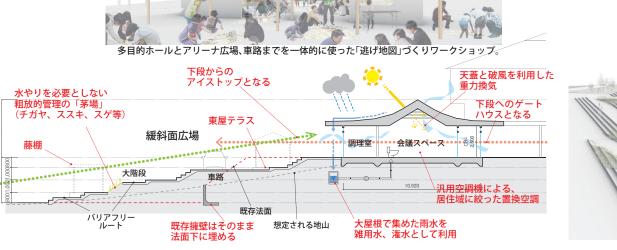
保に出動

流しそうめん」大会 白動車動線 日除けターフ いつもの仲間と グラウンドゴルフ 広場、車路までを一体 夜にはキャンプファイヤー 災害時に支援をフルに 受け入れられるように、 平常時は広いグラウン ふるさとサバイバル 平常時(防災キャンプ)の利用イメージ



楽しくて、優しい、法面のデザイン

- ・上下の敷地を一体的に利用できるように、法面をゆるやかな大階段、 バリアフリールート、車路等で構成します。
- ・平常時、メインの車路は一般車通行禁止とします。
- ・法面は単なる垂直動線ではなく、「緩斜面広場」として様々な居場所 を提供する楽しい法面となるように計画します。
- ・「東屋テラス」と呼ぶ広い踊り場や、この場所がかつて学校であった 記憶をつなぐ藤棚を設けます。
- ・造成工事の切り盛りをゼロとなるように設計することにより、工事費 を抑制します。
- ・既存擁壁はそのまま法面下に埋めることにより、解体費用を抑制します。
- ・法面の大部分が RC 土間(抑えコンクリート)となることで、地震等の 災害時にも上下敷地を繋ぐ安全な動線を確保することが可能になります。



<a-a' 断面イメージ S=1:300> 建築にとって大きな縁側(エプロン)のような「緩斜面広場」



概算工事費(稅込)347.6百万円